

高尾山古墳



シンポジウム資料集

～保存と沼津南一色線の挑戦～



令和7年1月

沼津市教育委員会

次 第

高尾山古墳国史跡指定記念シンポジウム

高尾山古墳の保存と沼津南一色線の挑戦

開催日時 令和7年1月13日（月・祝）

開催場所 沼津市民文化センター小ホール

12：00 開 場

13：00 開 演

13：10～13：25 開催趣旨 ～高尾山古墳保存の経過の紹介を兼ねて～

13：25～14：20 講演1 滝沢 誠 氏 「高尾山古墳と東駿河・伊豆の前期古墳」

14：20～14：35 休 憩

14：35～15：30 講演2 福井 恒明 氏 「公共土木事業は文化財の敵か」

15：30～15：45 休 憩

15：45～16：25 パネルディスカッション

16：30 終 了

目 次

開催趣旨 ～高尾山古墳保存の経過の紹介を兼ねて～・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

高尾山古墳と東駿河・伊豆の前期古墳（滝沢 誠）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

公共土木事業は文化財の敵か（福井 恒明）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

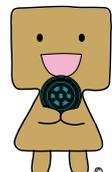
高尾山古墳や沼津南一色線に関する情報は、
こちらの二次元バーコードからご覧いただけます



高尾山古墳について



両立計画について



開催趣旨

～高尾山古墳保存の経過の紹介を兼ねて～

高尾山古墳は、沼津駅から北へ約 2.5km の地点に位置する前方後方墳です。昭和 50 年代には古墳であることは認識されていましたが、調査前まで後方部には高尾山穂見神社が、前方部には熊野神社が鎮座していたこともあり、その詳細は不明なままとなっていました。

しかし平成 20・21 年度に発掘調査が行われると状況は一変します。西側は削られてしまっているものの、埋葬施設を含んだ主要部分は完全に未盗掘の状態に残されていることがわかったのです。そして埋葬施設からは、鏡、鉄製のヤリや矢じり、石製勾玉など貴重な副葬品が出土し、さらに墳頂部や周溝からは、地元の土器に混ざって、外来系土器、つまり沼津ではない遠方の地域からもたらされた、もしくはその地に由来を持つ土器が大量に出土しました。

こうした調査成果を総合的に検討した結果、高尾山古墳は古墳時代前期初頭（3 世紀中ごろ）の古墳と判明しました。3 世紀中ごろという年代は、古墳時代の始まりの時期、つまり東日本最古級と評価できる年代であり、かつ 62 m という大きさは同時期においては最大級であることも明らかになりました。高尾山古墳の発見以前では、沼津周辺にはそこまで古い古墳はないと考えられていましたが、高尾山古墳の調査によって、それが一気に覆ったのです。

しかし通常であれば、すぐにでも国史跡となってもおかしくない貴重な古墳ですが、指定までには長い年月を要しました。なぜなら高尾山古墳の調査のきっかけになったのは、都市計画道路沼津南一色線の建設だったからです。沼津南一色線は国道 1 号と 246 号を結び、さらにその道路は南にまっすぐ駅まで伸びて、沼津駅の高架化が行われれば、海岸までつながるという、まさに沼津市の南北軸を貫く道路です。さらにこの周辺は慢性的な交通渋滞に悩まされており、通学をする子供たちにも危険が及ぶような状態であることから、沼津南一色線の建設は周辺住民の方々にとって生活環境を大きく改善させる重要な事業となっています。

調査以後、第 1 級の重要な考古資料となった高尾山古墳は、研究論文のみならず、多くの人の目に触れる一般書などにも取り上げられるようになりました。その重要性が研究者だけではなく、全国の方に知られることになるにつれて保存を求める声も高まっていく一方、道路の早期開通を求める要望も地元住民から繰り返し寄せられるようになりました。東日本最古級の古墳の保存か、住環境の大幅な改善を図る開発か。非常に悩ましい 2 項対立が生じていました。

転機になったのは平成 27 年度のこと。庁内での検討では、古墳の完全な保存は不可能であるとして、沼津市は古墳の保存を一度断念しましたが、これを白紙撤回し、外部の有識者の知見等をお借りして、高尾山古墳を保存しつつ、沼津南一色線を開通させることができないか、保存か開発かの 2 項対立を超えて両立の道はないのか、協議会を設置して検討を開始しました。協議会では古墳と道路の両方が 100 点満点を取ることを考えてしまえば両立は不可能であるものの、それぞれの価値を尊重するなかで、譲れるところがあれば両立する手立ては存在する可能性が見えてきました。

詳細は福井先生のご発表に委ねますが、検討の結果行きついた結論は、元々平面 4 車線道路であった沼津南一色線を、片側 2 車線を橋梁、もう 2 車線をトンネルと立体的な構造とするこ

とて、古墳をき損せず保存する方法でした。道路は当初予定の道路計画幅のままで整備が可能であるが、平面道路よりも難しい構造になる。一方、古墳はき損せず、確実に現地に保存されるものの、その全景の復元は困難になるという、それぞれ100点ではないが、それでも両方が求める内容の80点をクリアするアイデアでした。さらにただ古墳を保存する、道路を造るだけではなく、移転した神社や周囲の環境も含めて一体的な空間として整備するコンセプトも打ち出しました。

そしてこの難題の解決に向けて、令和2年に沼津市は全国初となる橋梁とトンネルの設計競技（コンペ）を実施しました。設計競技に向けた基本計画の序文には、福井先生による今も続くプロジェクトの根幹となる思いがつつづられているため、ここに引用をしておきます。

「我々は文字通り歴史の蓄積の上に暮らしている。二千年近い時間が経ってもこの場所に人の営みがあり続けることの意味を考えた上で、この地区の数十年先を見据えた空間構成の指針となるコンセプトとデザインを求めたい。

この事業で生まれる構造物と空間が、自動車交通の円滑化に留まらず、地域の歴史的価値を守り、その理解を進め、地域住民の様々な活動を自在に受け入れる場として実現し、長く使われ続けること、そのために最高の知恵と技術が投入されることを検討委員会委員一同、心から願ってやまない。」(福井恒明 『沼津市都市計画道路沼津南一色線道路設計等に関する基本計画』より)

現在、道路は設計競技の最優秀提案に基づき、設計が進められ、着手に向けて準備が整いつつあります。古墳もその価値をき損することなく、保存できる見込みとなったことから令和6年10月11日に国史跡として指定されました。文化財保護か開発か、文化財の保護の歴史を紐解いていくと、この2項対立がいつもありました。しかし対立ではなく、両立という選択は、今後の文化財保護に対する一つのモデルケースになると考えています。

考えてみれば古墳も当時の土木構造物です。高尾山古墳に至っては、3世紀中ごろにおける東日本最大級の構造物になります。現代のわれわれにとってスカイツリーが東京のシンボルとなるように、古墳を造った人は、開発を進めた土地のシンボルとして古墳を位置づけていたはずで、そしてその次世代以降は、その構造物を自分たちの生活環境の中に意味づけて守り続けてきました。まさに現代の私たちが行っていることと同じことを過去の人たちも繰り返してきてきたのです。

そのように位置づければ、先人の営みの保存とまちづくりは、本来対立するものではないことが見えてきます。文化遺産はその街にしかない個性です。その街にしかない個性を現代の都市計画の中に取り込み、未来のまちづくりを描くこと、古墳時代の人々と同じように、現代のわれわれも今再び考えてもよいのではないかと、そう思っています。

長くなりましたが、本シンポジウムでは、高尾山古墳の価値を確認し、そしてそれを現代社会にどのように調和させて、活かしていくのかについて考える機会にしたいと思っています。これまで古墳の保存や道路との両立に向けて、多くの方がそれぞれのお立場でご尽力いただきました。皆様に感謝申し上げ、開催趣旨といたします。

高尾山古墳と東駿河・伊豆の前期古墳

滝沢 誠
(筑波大学)

はじめに

- 1 高尾山古墳の調査成果
 - ・古墳の位置と調査の経緯 [図1]
 - ・墳丘・周溝・土器 [図2・6]
 - ・埋葬施設(主体部)と副葬品 [図3～5]
- 2 副葬品から考える高尾山古墳
 - ・上方作系浮彫式獣帯鏡(破碎鏡) [図4]
 - ・剣からつくり替えられたヤリ [図4]
 - ・精巧な鉄鏃 [図5]
- 3 高尾山古墳の年代
 - ・出土土器の位置づけ
 - ・小さな土器の大きな意味
 - ・追加調査からみた古墳の築造過程 [図7]
- 4 東駿河・伊豆の前期古墳
 - ・発見・調査が進む東駿河・伊豆の前期古墳
 - ・大型古墳の変遷とその解釈
 - ・東日本太平洋岸域の前期古墳と交通路
- 5 高尾山古墳の評価
 - ・3世紀中頃における東日本太平洋岸域の政治的経済的拠点の形成
 - ・ヤマト王権とも関わりながら独自の交流ルートと発信力をもつ有力者の出現
 - ・律令期にも記憶される地域形成揺籃の地

おわりに



図1 高尾山古墳の位置



図2 高尾山古墳

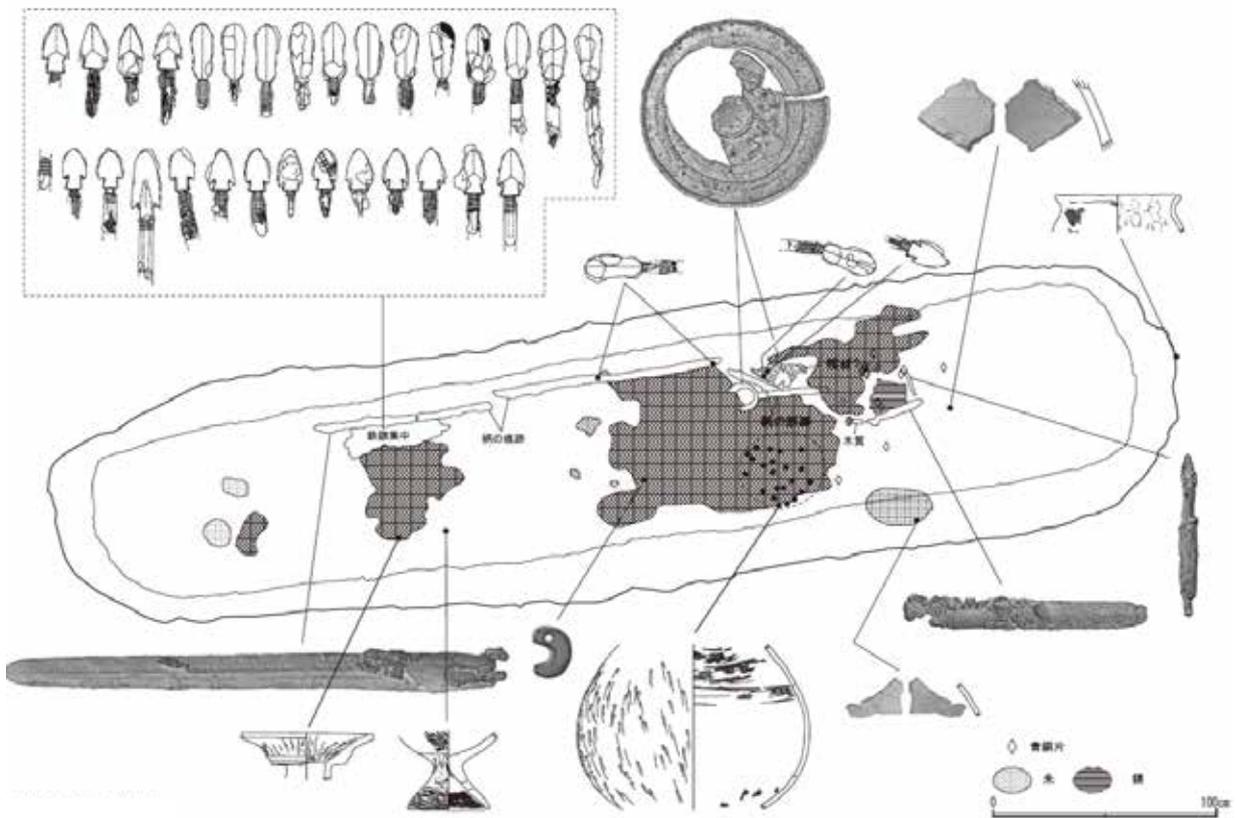


図3 埋葬施設の遺物出土状況

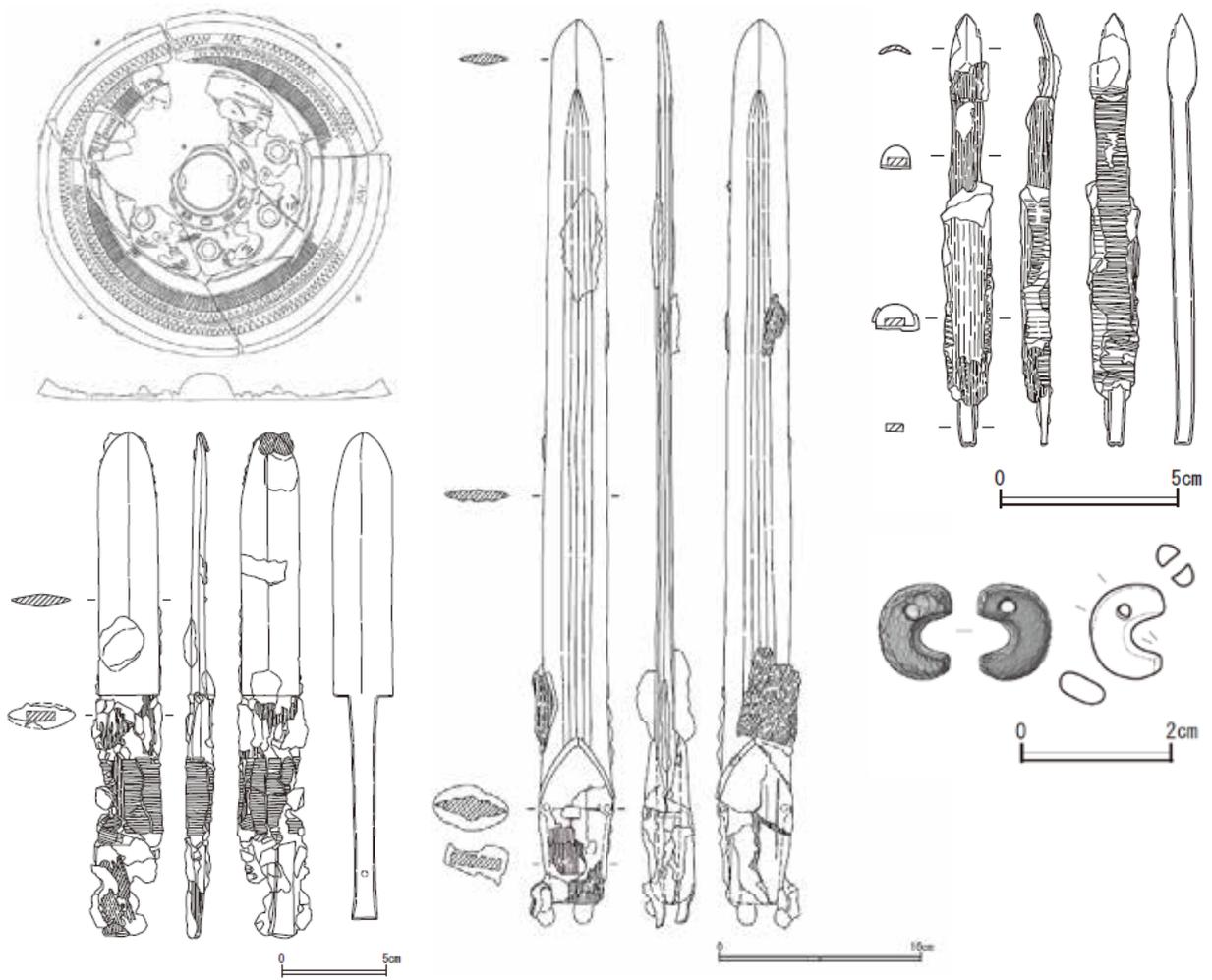


図4 高尾山古墳出土の副葬品 (1)：銅鏡、ヤリ1・2、ヤリガンナ、勾玉

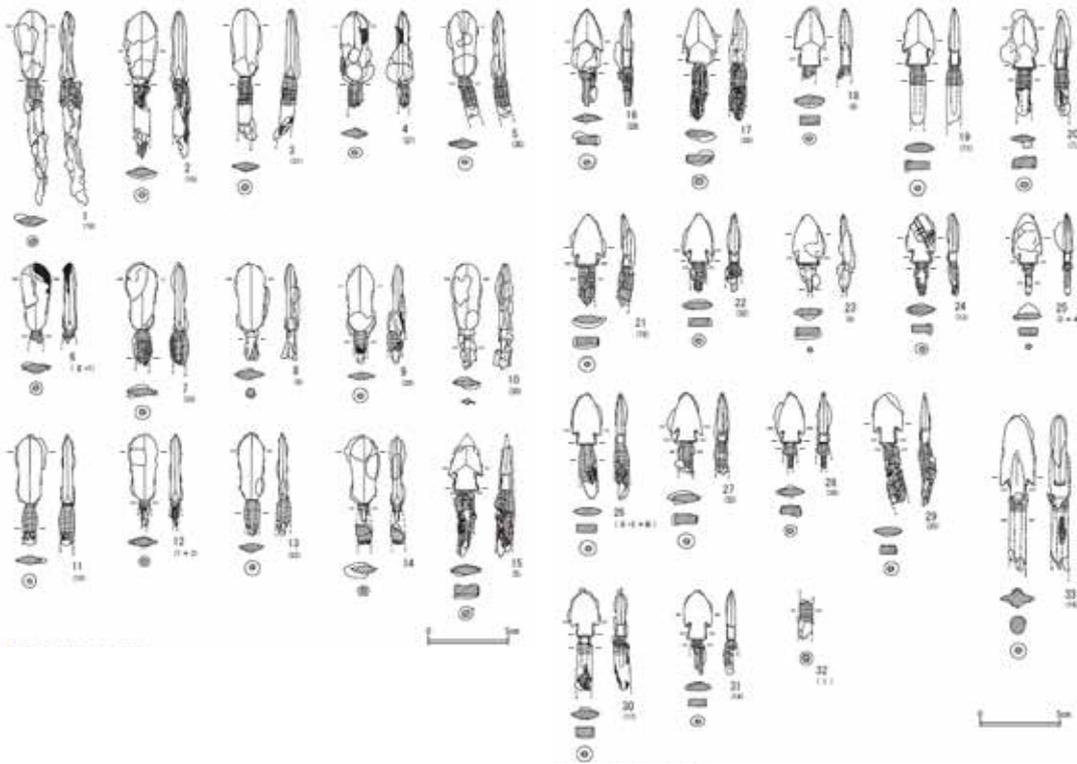


図5 高尾山古墳出土の副葬品 (2)：鉄鏃

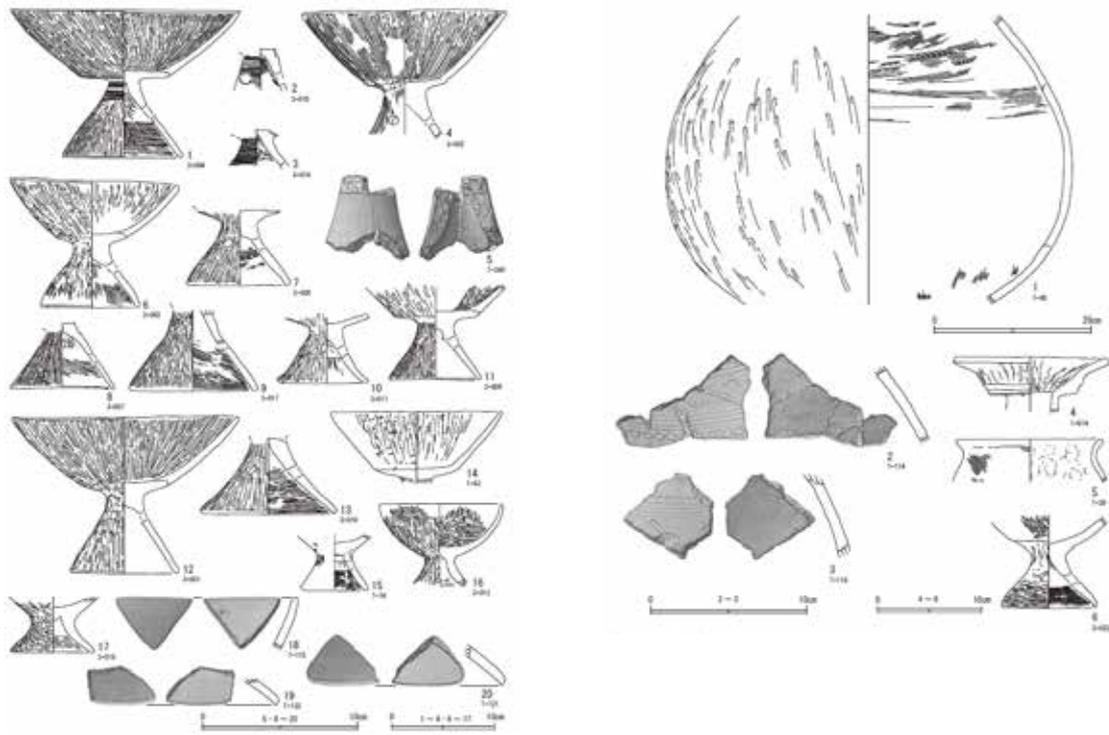


図6 高尾山古墳出土の土器（一部）
左：周溝内出土 右：墳頂部出土

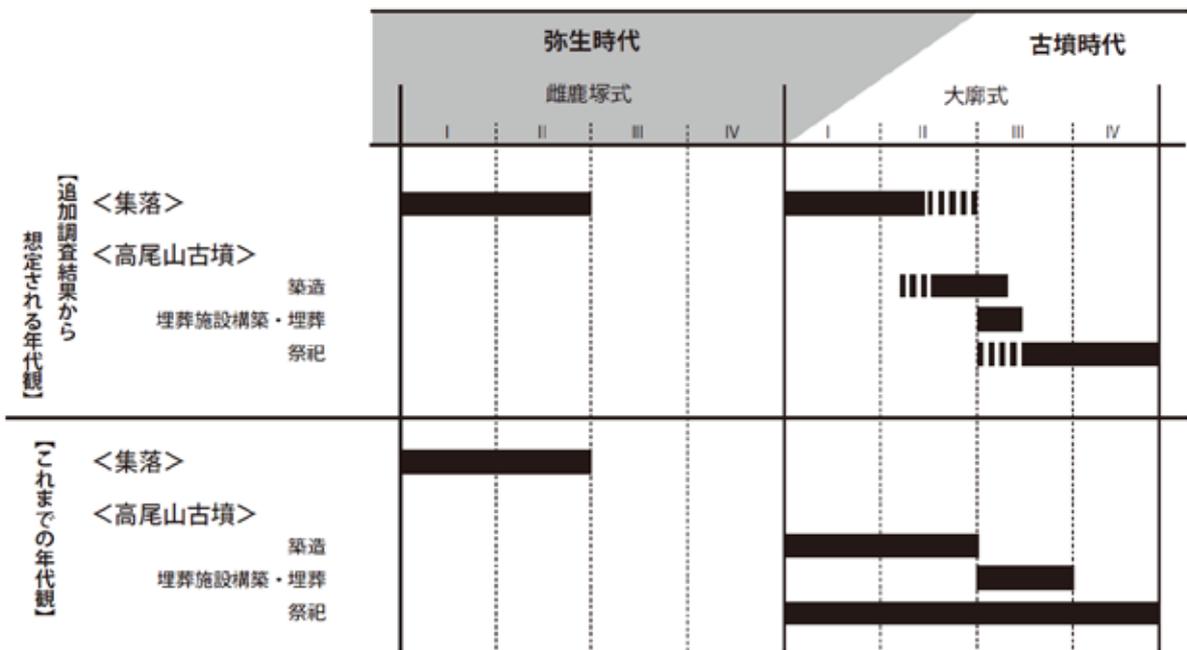


図7 高尾山古墳の年代観

図出典 図1～6：沼津市教育委員会『高尾山古墳発掘調査報告書』2012年
図7：沼津市教育委員会『高尾山古墳追加調査報告書』2021年

公共土木事業は文化財の敵か

福井 恒明
(法政大学)

- 1 自己紹介 ～土木デザインの専門家としての沼津との関わり
 - ・ 江原素六先生の縁
 - ・ 沼津市での土木デザイン・景観デザインのお手伝い (2017年から)

- 2 高尾山古墳の保存+沼津南一色線計画をどう解くか
 - ・ 「こんな橋、架かるの？」
 - ・ 沼津にとってとても大切な場所
 - ・ 援軍をどう集めるか～設計競技方式の選択

- 3 日本初の道路事業における設計競技の企画
 - ・ 設計競技の難しさ
 - ・ 準備と体制作り
 - ・ 何の提案を求める設計競技か
 - ・ 公開プレゼンテーションによる審査

- 4 設計競技実施の成果と振り返り
 - ・ 最優秀案とその他の案
 - ・ 事前に決められた制約条件の厳しさ
 - ・ 「古墳に配慮した道路」ではなく「古墳と道路が共にある地域」のデザイン

- 5 公共土木事業と文化財の関係
 - ・ なぜ公共土木事業と文化財保存の相性が悪いのか
 - ・ どうしたら前に進めるのか
 - ・ (余談) 古代と現代がつながっているイタリア都市

- 6 公共土木事業は文化財の敵か
 - ・ 公共土木事業を文化財保存活用の契機に
 - ・ これから求められるのは一石三鳥の計画・デザイン



都市計画道路沼津南一色線設計競技 最優秀提案 ふるさとの風景をつくる「みちにわ」
(株)エイト日本技術開発静岡事務所・(株)イー・エー・ユー

高尾山古墳国史跡指定記念シンポジウム
高尾山古墳の保存と沼津南一色線の挑戦
シンポジウム資料集
編集 沼津市教育委員会
発行年月日 令和7年1月13日